

逢初川源頭部の残置盛り土の安定性の評価

1 目的

令和4年5月17日に副知事が行った会見において、P部盛り土に関して「安定性の面からは早急に撤去する必要はない」という報告をしました。

その後、令和6年9月の台風10号に伴う大雨の影響により、行政代執行後の逢初川源頭部下流側の切土法面などにおいて小崩落（別添参照）が確認されたことから、源頭部上流側のP部盛り土の安定性について検証を行いました。

このたび、地質専門家等の助言を受けて安定性の評価を行った結果がまとまったことから、その内容を公表します。

2 評価方法

- ・評価は、図1に示すP部盛り土（源頭部上流側）について行いました。

- ・P部では、断面（測線）を設定し、斜面の安定性を評価するための基本的な手法として、2次元の円弧すべり解析を採用しました。

- ・解析を行う条件として、既存のボーリング調査結果の水位を盛土の飽和線※1としました。

また、用いる土質定数は行政代執行を行った盛り土と同じ値としました。

- ・これらの条件により、現在のP部盛り土の安定性に問題※2があるかを検討しました。

※1：土の中の空隙を全て水で満たされている状態の高さを示す線

※2：円弧すべり解析の安全率が1.2を下回り、崩落の危険性が高くなる状態



図1 位置図

3 P部盛り土の状況（写真1）

- ・行政代執行を行った盛り土とは異なり、P部盛り土では湧水の流出箇所や痕跡也没有ありません。

- ・P部盛り土の下部は、森林となっており、新たに崩れた痕跡也没有ありません。



写真1 P部盛り土

4 安定性の評価

2次元の円弧すべり解析により安定性を評価した結果、安全率が1.4となりました。

1 逢初川源頭部の状況

- 令和6年9月の台風10号に伴う大雨の影響により、これまでに3箇所の崩落（【表1】を参照）が確認されています。
- 令和6年10月31日に実施した現地確認の結果、新たな変状（亀裂）が確認されました。
- 令和6年11月2日に熱海市で連続雨量107mmを観測したことから、降雨後に現地を確認したところ、3箇所の崩落と亀裂には大きな変化は見られませんでした。

【表1】これまでに確認された崩落（3箇所）

箇所	崩落等の規模	崩落の状況
崩落①	・幅5m、長さ10m、 ・土量10m ³ 程度	・湧水や浸食が見られないことから、降雨の浸透により斜面の土砂が落下したものであり、大規模な崩壊につながる恐れは低いと考えています。 ・11月3日、崩落状況に大きな変化がないことを確認しました。
崩落②	・幅7m、長さ10m、 ・土量40m ³ 程度	
崩落③ (下流右岸側)	・幅40m、長さ10m、 ・土量400m ³ 程度	・自然斜面が崩落したものです。 ・崩壊が拡大する可能性は低いと考えています。 ・11月5日、崩落状況に大きな変化はなく、下流への土砂移動がないことを確認しました。

